

地域の話題 北海道日本ハムファイターズ

北海道日本ハムファイターズが進める「世界がまだ見ぬボールパーク」実現へ

2023年の開業を目指してすでに着工されている、北海道日本ハムファイターズの新球場。これまでの札幌ドームから隣接する北広島市に本拠地を移し、野球を知らない人でも楽しめる、まさに夢のようなボールパークを誕生させる。このプロジェクトを牽引する(株)ファイターズ スポーツ&エンターテインメント取締役事業統轄本部長の前沢賢氏にお話を聞いた。

画像提供:北海道日本ハムファイターズ



(株)ファイターズ
スポーツ&エンターテインメント
取締役 事業統轄本部長
前沢 賢 氏

2023年に開業する「HOKKAIDO BALLPARK F VILLAGE(北海道ボールパーク F ビレッジ)」のイメージ

——札幌市の隣、北広島市に開業する「HOKKAIDO BALLPARK F VILLAGE(北海道ボールパーク F ビレッジ)」はどのような場所になるのですか。

「HOKKAIDO BALLPARK F VILLAGE(北海道ボールパーク F ビレッジ)」(以下、Fビレッジ)は、「共同創造空間」をコンセプトに、地域と連携しながら「世界がまだ見ぬボールパーク」を目指しています。簡単に言うと、野球を観戦するだけでなく、野球を観ない人でも楽しめる空間にしたいと思っています。具体的には、天然芝で開閉式の屋根があるスタジアム「ES CON FIELD HOKKAIDO (エスコンフィールドHOKKAIDO)」(以下、EFH)を核に、その周辺にはホテルや温泉、グランピング施設、水辺、マルシェなどさまざまなエンターテインメントが集結します。

周囲の自然と調和するように考慮し、Fビレッジ内には森や沢があり、そこで多種多様なアクティビティを提供

する予定です。冬はアイススケートなども楽しめます。レジャーだけでなく、教育や健康づくりの拠点としても利用できる場にしたいと思っています(図1)。



■ Fビレッジの敷地 ■ 敷地内のEFHの位置

図1 Fビレッジの敷地とEFHの位置図

——新球場を造る構想はいつからスタートしましたか。北広島市に決定した経緯を教えてください。

ファイターズが北海道に誕生したのが2004年。その5年後くらいには、球団内で自分たちの球場がほしいという話が出ていました。球団運営をやっていく上では、ハードとソフトの一体経営が必要だと思っていたからです。国内外を見ても、成功しているところは自前の球場を持っていることが多い。球団経営のあるべき姿なのだと思っていました。そういうストーリーから派生して、球場を造ろうと。具体的に話が進み始めたのは、2015年の4月あたりでした。

北海道だからできるボールパークを造ろうということで、札幌圏で30カ所くらいの候補地を見て回りました。いろいろ調べていく中で、可能性のある場所が2、3カ所に絞り込まれ、北広島市がそこに含まれていたという経緯です。

候補地を絞り込む際、主に3つの譲れない条件がありました。第一に札幌圏であること。次に敷地面積が20ha以上あること、そしてもう一つが鉄道の沿線にあること。

北広島市とは、ボールパーク建設による街づくりに向けて、情熱が共有できたというのも大きいですね。

——2020年春に着工されたボールパーク建設。そこに向けて、困難はありましたか。

困難はたくさんありました。でも過ぎればみんな忘れてしまいますね(笑)。できないことを考えるより、できることを考えた方がいいに決まっていますし。

建設地が決定したとき、「遠い」とか「アクセスが悪い」とか、ネガティブな声も聞こえてきました。北海道に誕生当初は、球場へ観戦に来ない最大の理由に「札幌ドームが遠いから」というのをあげる人が多かった。それが今では、「札幌ドームは立地がいい」と言われるようになりました。人の行動範囲はどんどん変わるものです。今はまだ遠いというイメージかもしれませんが、それも時間と共に変わっていくはず。もしくは、いいものを造れば時間を超越して人の行動と意識を変えられるかもしれません。

——開業までのスケジュールを教えてください。

開業は2023年3月ですが、前年の12月頃までに



写真1 工事が始まったFビレッジの様子(2020年8月撮影)



写真2 工事の様子を見学するファイターズの選手たち

EFH単体は完成する予定です。プロ野球の2023年シーズンは、Fビレッジで開幕を迎えます。工事は今のところ順調です(写真1、2)。

——近隣地域との連携はどのように進められていますか。

Fビレッジは北広島市に誕生しますが、私たちが目指しているのは北海道全域を盛り上げることです。そこで、まずは北広島市を含め近隣14市町村が参加するオール北海道ボールパーク連携協議会を2019年7月に立ち上げました。スポーツ、人材育成、周遊観光などの軸で勉強会を開催しています。今年はコロナ禍で勉強会の頻度も減りましたが、メールでも連絡を取り合っていて活動しています。

Fビレッジのキーワードの一つに「地産地消」があるので、開業後は各地域の特産品を扱うマルシェを開いたり、レストランやカフェで道内産の食材を使ったりといったことにも、もちろん力を入れていきます。

このボールパーク構想の根底には北海道への地域貢献があります。私たちがやるべきことは、大きく2つ。1つ目は道外企業による道内への資本投下の促進。2つ目は道民誰もが来られる場所をつくること。特に球場内は子どもの入場料を無料にすることなども考えていて、北海道の子どもたちに野球の楽しさや球場のすばらしさを気軽に体感してもらいたいと思っています。

——JRの新駅が開設されるなど、Fビレッジの誕生により、周辺のまちも変化しそうですね。

現在のJR北広島駅と上野幌駅の間に新駅ができる予定です。完成は2027年度でFビレッジの開業には間に合いませんが、最寄り駅となる北広島駅舎の改修工事や駅前周辺の再開発プランが始まっていて、かなりの規模だと聞いています。

北広島市でも「ボールパークと共に目指す新たなまちづくりの将来像」を掲げ、積極的な都市経営のモデルを実現しようとされています。そういう効果のようなものが、近隣市町村へ、そして北海道全域へと広がっていくといいですね。

Fビレッジ周辺の道路については、北広島市、北海道や国土交通省北海道開発局の協力で整備される予定です(図2)。こうした各所のご協力には大変感謝しています。

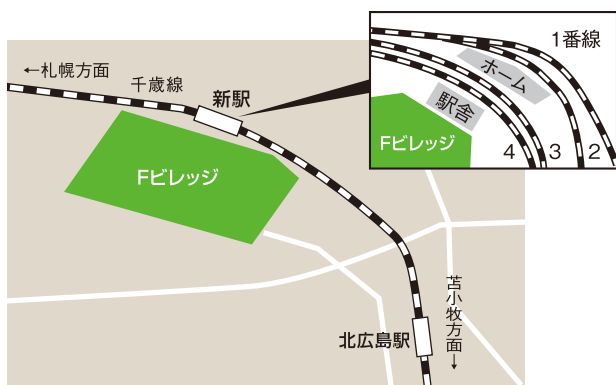


図2 Fビレッジに直結するJR北海道の新駅イメージ

——新駅の開設はまだ先になりそうですが、それまでのアクセスはどうなりますか。また広大なパーク内の移動はどのように考えているのですか。

JR北広島駅と新札幌駅からシャトルバスを運行する予定です。新札幌駅には地下鉄も直結しているので、250万人といわれる札幌圏の方が直接アクセスできるように考えています。北広島駅は新千歳空港に直結する快速エアポートも停車するので、道外からのお客さまも利用しやすいのではないのでしょうか。

先ほども話したとおり、北広島イコール「遠い」というイメージがあるかもしれませんが、札幌と新千歳空港の間にあり、ニセコや登別などの観光地へも1時間ちょっとで行ける場所。2時間あればもっと遠くまで足を伸ば

せます。北海道は広くて、いいところがたくさんあり、ロングステイができるエリアです。その北海道で旅行者にとってのハブ的存在になれるのではないかと考えています。

新駅が完成したら、駅前から球場まで続くストリートにはカフェやマーケットが並び、球場に着くまでずっと楽しめるような通りができあがる予定です。またパーク内の移動にはクリーンエネルギーを活用した先端的モビリティを導入します。モビリティターミナルを拠点とし、各エリアにバス停やシェアサイクルポートなどを設置する予定です。駐車場も約4,000台分用意するのでお車でのご来場も可能です。

——防災拠点としての機能について教えてください。

EFHは災害時に避難所としても機能します。東日本大震災や北海道胆振東部地震など、大きな災害を経験し、私たち野球界の人間に何ができるだろうかということを考えてきました。野球でみんなを元気づけようというのは、なかなか難しい。災害の渦中にあるときはもっと切実です。小学校の体育館や公民館などに避難し寝泊まりしている方々を見たとき、球場を活用してはどうだろうと思いました。そこでEFHには最初から防災拠点となる機能を持たせ、長期化する避難所生活にも耐えられるよう、新たな形での避難空間づくりを目指しています(図3)。



図3 災害時には防災拠点としても活用するEFHのイメージ



図4 周囲の緑と調和するデザインのスタジアムイメージ

——参考にした球場はありますか。またデザインコンセプトを教えてください。

北米を中心にいくつかスタジアムを見て回りました。ボールパークという考え方は、もともとアメリカのメジャーリーグで根付いているもの。日本国内でも福岡ソフトバンクホークスや東北楽天ゴールデンイーグルスの本拠地などはとてもいい球場です。ただ、いろいろ見て刺激にはなりますが、どこのスタジアムとも違うものを造りたいという思いがあるので、特に参考にしたところはあります。新しいスタジアムのデザインを考えたとき、近未来的な建物にはしたくありませんでした。北海道には合わないと思うからです。個人的な好みもあるかもしれませんが、これについては、このプロジェクトに関わっている全員が思いを一致させていました。多くの球場は、いきなり壁がそびえ立っていて威圧感が強すぎる。理想は、知らないうちにスタジアムの中に入っているような球場にしたかったのです。遠くから見ると、たくさんの箱が飛び出しているように見えるデザインにしたのは、威圧感を軽減するためです(図4)。

——Fビレッジで、来場者にどんなことを楽しんでもらいたいですか。

子どもたちに体験してほしいのは、球場から外に飛び出すジップラインですね。きっとすごく楽しいですよ。パーク内には宿泊施設もできますし、キャンプ場もあります。道内の遠方からお越しの方々には、ぜひ宿泊して楽しんでほしいですね。コンサートや音楽フェス、クラブビールまつり、ワインまつりなどなど、さまざまなイベントの開催も考えています。一度だけでなく、何度も行きたくなる仕掛けを作り

たい。野球の試合がない日でも十分に楽しめて、散歩したり寝転んでお昼寝したりするだけでも利用できる。道民のみなさんが、一度は行ってみたいと思える場所になりますので、ぜひ野球に興味のない方にも来ていただきたいと思います。

——壮大な北海道ボールパーク構想が動きだし、着実に進んでいます。今の率直なお気持ちを聞かせてください。

「そんなのできるわけないよ」と言われたこともあります。でも私たちは絶対にできると信じてやって来ました。このプロジェクトに賛同し、関わってくださっている市町村や民間企業の方々もみなさん「できる」と信じてくれています。これまで相談にのってくれた北海道庁や北海道開発局の方々も、みなさん力を貸してくれています。北海道知事や副知事も期待を寄せ、協力してくださっています。本当に感謝しています。だからこそ、私たちはその期待になんとしても答えたいと思っています(図5)。



図5 ボールパーク全体のイメージイラスト(ボールパークHPより)
<https://www.hkdballpark.com/ballpark/>